



ゆうメール



青峰同窓会

会報
2022年号



富士山と五重塔

INDEX

会長挨拶……………1

寮務主事挨拶……………2

卒業生からの便り……………3~4

- 山野 勝久
- 中林 芽以

転任教員挨拶……………5

- 村松 愛梨奈(教養教育科)

新任教員挨拶……………5~6

- 山本 真人(電子情報工学科)
- 菊池 翔太(教養教育科)
- 青柳 唯(教養教育科)

2021年度 会計報告……………7

お知らせ……………7~8

- 奥 先生より
- 鈴鹿高専は皆さんのUターンを支援しています

誌名
青峰同窓会会報

発行日 2022年10月
 発行 国立鈴鹿工業高等専門学校 青峰同窓会 広報委員会
 〒510-0294 鈴鹿市白子町 TEL059-386-1031 E-mail:almn@suzuka-ct.ac.jp



ご挨拶

青峰同窓会 会長
小手川 智
 (42C卒)

同窓会会員の皆様にはお変わりなくご健勝のこととお喜び申し上げます。鈴鹿工業高等専門学校の創立60周年を迎えることを心からお喜び申し上げます。

60周年は昭和37年4月28日の開校式並びに入学式に1期生として参列した私にとっては感無量であります。開校式並びに入学式は仮校舎で行われ、現在の母校の校舎や設備は無く、1年後の昭和38年3月に管理棟と教室棟、寄宿舎が竣工しました。

初代学校長の木村和三郎先生は開校当時から機会あるごとに学生に対して母校の建学の精神を「規律と礼儀とチームワークを尊重する尚武勉学の健全にして明朗な校風を築き、5ヵ年一貫の「知・徳・体」三育の全人教育による高度の科学技術と豊かな教養と健全な技術者精神を身につけた逞しい「エンジニア・ジェントルマン」を育成する。」と申されてきました。多くの卒業生にとって「エンジニア・ジェントルマン」は胸に染み付いた言葉となっております。

私は卒業して以来母校を訪れる機会に恵まれましたので母校の発展していく姿を見るにつけ60年変わることなく「校風」「建学の精神」が脈々と受け継がれていることを歴代学校長、教官、職員の皆様のご尽力の賜物と感謝いたします。

開校から60年を経た現在は60年前には想像もできない科学技術の発展と変化をもたらしました。この間、学生の教育、指導に携わってこられた教職員の皆様に感謝申し上げます。卒業生、修了生は国内、海外を問わず活躍されており各分野で高い評価を得ており、大変誇りに思い喜んでおります。

同窓会におきましては会員数が9000余名の規模になりました。

平成25年(2013年)に母校と卒業生とで協力して地域貢献の一環として鈴鹿高専テクノプラザ(地域密着型産学官連携ものづくり支援)を設立しました。設立当初は卒業生関連の企業が中心になって31社で発足しました。その後令和3年には企業会員146社、個人会員18名、特別会員13団体に発展しております。企業との共同研究にも取り組んでおります。今後も母校と協力して様々な課題に取り組んでまいります。

終わりにあたり、同窓会活動の継続に多大なご尽力をいただいておりますのは鈴鹿高専を卒業して後に教官、職員として母校に赴任した方々です。それぞれの任務を果たしながらの活動に心から感謝申し上げます。



寮務主事から 同窓会会員の皆さまへのご挨拶

寮務主事
林 浩士

同窓会員の皆さまには、日頃から学寮を気にかけていただき、心から感謝申し上げます。平成30年度から寮務主事を務めさせていただいております、教養教育科の林と申します。

私は平成3年度に鈴鹿高専に赴任し、以来31年間本校でお世話になっております。その間、赴任当時の勝田先生をはじめ、錚々たる先生方が寮務主事を精力的に務められるご様子を拝見し、自分がその立場になるなどとは想像すらしませんでした。直近では、江崎尚和先生、近藤一之先生といった本校OBである先生方が主事のバトンを繋いで、後輩である寮生たちと一緒に守ってこられた青峰寮の精神を、私のような者がちゃんと維持していけるのだろうか、職を拝命する前にはたいへん悩みました。

私が赴任した当時は、まだ和同会館(現在の青峰寮Aの敷地)が残っており、第4青峰寮には、机が配置された学習スペースと、布団を敷いて就寝するための小上がりになった畳スペースが配置され、寮生4人が共同で暮らしていました。第2青峰寮、第3青峰寮(現在のイノベーション交流プラザ)では、廊下を挟んで両側にそのようなスペースが作られていたと思います。畳の上では同室の学生たちがトランプをしたり、談笑したりする姿が見られ、今思えば古き良き時代の寮生活を垣間見られる空間があったなあと記憶しています。むろん、今の寮生よりずっと多くの不便があったことではと思いますが、ここで生活した同窓生の皆さまなら、寮生時代の思い出を、昨日のことに懐かしく思い起こされることでしょう。私は幸い初代寮務主事、故野田彦四郎先生とも生前にお話しする機会に恵まれ、「野田寮」と呼ばれた頃の「寮監」と「寮生」と

の厳しくも大らかな人間関係の一端をうかがい知ることができました。全寮制で、寮生数も600名ほどの時代に、野田先生は毎年、寮生全員の顔と名前を見事に把握しておられたという逸話も耳にしました。

時が移り、令和元年度の終わりから始まった新型コロナウイルスの猛威が、全国の高専の寮生活を大きく変えてしまいました。マスクをつけた寮生の顔は互いに覚えにくくなり、楽しい時間であったはずの寮食堂での食事は黙食を強いられ、浴場や談話室での談笑も制限されることとなりました。以前なら、談話室に集まってみんなで歓声をあげながらテレビ観戦できたはずの東京オリンピックも、居家で静かにスマホ視聴することになってしまいました。そのような中で、寮生たちが自覚をもって窮屈な感染症防止対策に取り組んでくれたおかげで、この2年半の間、クラスター(集団感染)と認定されるような感染が寮内で起こることなく、他高専の寮と比べても安心して暮らせる寮であり続けていることは、諸先輩方が残してくれた自律の精神と互いを尊重する温かい関係が、目に見えない形で受け継がれているからこそであると確信します。

「一つ屋根の下で、同じ釜の飯を食う」という共同生活様式は、そのまま感染症のリスクを高める行動に当てはまってしまう。しかし、感染防止のための行動制限があってもなお、一つ屋根の下で暮らす中でちょっとした経験の共有と集積が、確実に学生の人間形成にプラスの影響を与えていると、現在の寮生たちを見ても感じます。どのように生活様式が変わっても、今も同窓生の皆さまの心に残る青峰寮の精神は、引き継がれるよう努めてまいりたいと存じます。

卒業生からの便り

「勝山組」

私は、平成19年に鈴鹿工業高等専門学校を卒業し、早いもので15年が経ちました。卒業後は、地元四日市にマザープラントを構えるJSR株式会社に入社しました。入社後約10年は、在学中に学んだ電気部門の専門知識や経験を活かし、プラントに関する設備、保全業務に携わってきました。その後、社員の管理や育成、人事に関わる業務へと変化してきており、それに合わせて必要とされる能力も変化してきている現状があります。そのような社会人生活を送る中で、学生時代を振り返った時に、一生懸命に取り組んだ部活動(バスケットボール部所属)と、本日も紹介させて頂く「勝山組」の活動が今の自分にとって極めて大きく、良い影響を与えていると断言できます。

卒業後も鈴鹿工業高等専門学校には、「勝山組」の活動を通じて大変お世話になっており、今回、このように寄稿させていただく機会を頂戴できたことに深く感謝しております。誠にありがとうございます。

2002年、第39回鈴鹿工業高等専門学校祭での学生有志による「南中ソーラン」の演舞披露を先駆けとし、熱気冷めやらぬ中、翌年2003年も学祭に向けた練習が始まりました。練習に熱が入り始めた頃、地元鈴鹿市の夏の風物詩といわれ、今年で第24回を迎える「すずかフェスティバル(通称:すずフェス)」の実行委員の方から「すずフェスに出てみないか?」とお誘い頂き、勢いのままに出場を決めました。必要となったチーム名は、当時の鈴鹿工業高等専門学校校長の名前に由来する「勝山組」と名付けました。これが勝山組の起源です。チーム結成から早20年が経ち、「勝山組」は20周年を迎えることとなりました。ひとえに皆様の暖かいご支援のお蔭と、心より御礼申し上げます。

さて、そんな「勝山組」において、私は代表を14年務めて参りました。その際に掲げていた「勝山組」の活動方針は次の3つです。①自己研鑽と人材育成、②地域貢献、③生涯の友を作ること。それらを説明すると、以下の如くです。

①この活動を通じて、多種多様な方々と関わりをもつことで、自分自身の、また関わる誰かの人間力を、向上させることができます。学校や会社は失敗が許されない風土と文化ですが、「勝山組」は失敗しても殆ど場合はごめんなさいで済みます。皆様ご

山野 勝久 H17E卒 (H19D卒)

存知の通り、成功よりも失敗から学ぶことの方が圧倒的に多く「勝山組」という活動を通じて、色んな失敗をし、時には成功体験をして、経験を積むことで、それら全てを明日の自分の糧とすることができます。

②「勝山組」の代表的な活動は、地元のお祭りやイベントへの参加や支援、病院や介護施設、教育機関への慰問、訪問等を筆頭とするボランティア活動となります。これらの活動は地域の盛り上げに貢献し、町を元気にする活動となっています。今後も引き続き、積極的に活動を展開し、地元や、地域社会を元気にすることで、そこに住まう誰かの役に立ちたいと考えています。

③「勝山組」の活動を通じて沢山のひとと出会い、信頼関係を築き、お互いを信用して濃密な時間を過ごす。その時間の中で共に喜び、時には怒り、泣き、笑い、濃密な時間を過ごして、自分自身にとっての生涯の友と呼べる人を作ることです。進学、就職、結婚、引っ越し、出産と人生のページが進むにつれてなかなか会えなくなる友と、たった1年に1度だとしても顔を合わせる。そんな口実にこの「勝山組」の活動を位置付けたいと考えています。

「勝山組」の活動に引退はありません。「勝山組」の歴史の中で、ずっとチームの中心にいるメンバーもいれば、チームから距離をとっていくメンバーも沢山います。しかし、「勝山組」はメンバーにとって港のような場所になっています。港、それは見送るばかりではなく、帰ってくる場所であり、新しい出会いの場所でもある。1年に1回、どんな形であれ「勝山組」に顔を出そう。そうして集まるメンバーに「ただいま」を言い、また、新しく迎えたメンバーに「初めまして」を言う。そんな場所にもなっています。その為、一度関わったら最後(笑)生涯現役のメンバーとなる事が確約されています。(そんな人間関係の構築をチーム全体として目指します。)

そんな「勝山組」への関わり方は、今も、昔も、そしてずっとこれからも、人それぞれです。そのような中で、上記の活動を続けるにあたり、チームみんなの



約束事としておきたい事は、何かしらでも関わりたいという気持ちや関心を持つことと、集まるみんなへの思いやりを持つことです。「勝山組」の為というのは難しいかもしれませんが、集まる誰かの為、関わると決めた自分の為にも大事にしたい想いです。

最後になりますが、世間は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響を受け、なかなか活動は難しい状況ですが、引き続き感染防止対策を徹底し、個人の価値観も尊重したうえで、出来ることをしっかりやって

未来に繋げていきたいと思っています。

既につながっている誰かの為にも、これからつながる誰かの為にも、皆さん、今後とも「勝山組」をよろしくお願ひします。是非、皆さんも「勝山組」へ足を踏み入れてください。まだ見ぬあなたに、いつの日かお会いできることを心より楽しみにしております。



私の選択

平成31年に卒業し、3年が経ちました。高専卒業後は、奈良女子大学に編入学した後、京都大学大学院に外部進学しました。

私が2度の受験でどちらも外部進学を選択したきっかけは、高専の教授の一言でした。「外部進学すれば、多くの人と出会い、刺激を受けることが出来る。そうすれば視野が広がり、人としても研究者としても成長できる」という言葉で、外部進学しようと決め、すぐに受験勉強を始めました。外部受験は内部受験よりも難易度が高いと言われており、進学後も慣れない環境や初対面の人たちと研究を進めなければいけません。決して、楽な道ではありませんでしたが、この苦境こそが自身の成長の根源になりました。

また、私は高専・学部・修士で異なる分野の研究に取り組んできました。高専では無機化学の研究で、火事の原因である銅線からの発火がどのような条件で起きるのかを検証していました。学部では理論化学の研究でプログラミングを使って分子運動の可視化を行っていました。現在、修士では分子生物学の研究で、体内の反応を試験管内で再現するためのDNA構造体を開発しています。

どれも必要な知識や知見は異なりますが、根本はどの分野においても同じであると感じました。例えば、研究の進め方です。想定していた結果と実験結果が異なった場合になぜそうなったのか考察し、問題を解決するために次の実験を計画する。研究活動は、この繰り返しです。そのため、高専や大学の研究活動の経験を、現在の研究活動で活かされるものが多いと感じています。

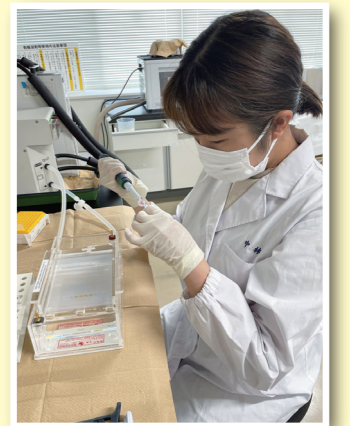
中林 芽以 (H31C卒)

また、大学や大学院は留学生が多く、現在私が所属している研究室は、所属メンバーの半分以上が外国人です。そのため、日常会話や研究活動では英語を使う機会が増えます。英語が苦手な私は非常に苦勞していますが、積極的に話すことで英語に慣れ、少しずつではありますが自分の気持ちや考えを伝えられるようになりました。

大学生生活・大学院生活では、研究生活だけでなく、大学や大学院で出来た友達と遊んだり、海外旅行に行ったりと充実した日々を過ごしています。

様々な経験を通して刺激を受けながら、自分自身の成長を実感できたため、外部進学してよかったと思います。

来春からは重工業の会社に入社して設計をする予定です。昨今、環境問題が重要視されている中、多くの企業が環境問題に関する事業や取り組みを始めています。そのため、ほとんどの業界で化学の知識は必要となります。私は「地図に載るような規模の大きい仕事がしたい」という夢を持っていたため、この企業を選びました。これまで取り組んできた分野とは大きく異なりますが、高専・大学・修士で身に付けた知識と知見を活かして、精進していきたいと思っています。



転任教員挨拶



新天地より

村松 愛梨奈

令和4年3月まで教養教育科に在籍しておりました村松愛梨奈です。在職中は教職員や学生の皆さんに大変お世話になりました、改めて感謝を申し上げます。赴任時は初めての三重県、初めての高専教員で、右も左も分からない状態でしたが、多くの人に支えてもらい、素敵な5年間を過ごすことができたと感じております。

4月からは愛知県刈谷市にある愛知教育大学にて教員をしております。出身校ということもあり、慣れ親しんだキャンパスではありますが、学生の時とは見えるもの全てが違って感じ、日々勉強中

です。そして、今年は鈴鹿高専から本学に編入した学生もいまして、4月当初は一緒にキャンパスを散歩したり、話をしたりして、高専とまた違う教育大の雰囲気と一緒に戸惑ってました。6月に入った今はと言いますと、少しずつ学校にも慣れてきて、スポーツ医学などの授業やゼミを担当し、日々バタバタと過ごしております。そして、変わらず水泳には縁があり、毎日プールにいます。コロナ禍もあり、なかなか皆様にお会いできる機会はないのですが、皆様のご活躍と鈴鹿高専の益々の発展をお祈りいたしまして新天地からの挨拶とさせていただきます。



新任教員挨拶



着任のご挨拶

電子情報工学科 助教
山本 真人

令和4年4月1日付けで、鈴鹿高専の電子情報工学科に着任しました山本真人です。昨年度までは、三重大学大学院博士後期課程の学生であり、社会人としての生活の幕開けを鈴鹿高専で経験しています。

現在の研究活動は、地理情報システム(GIS)というツールを用いて自然からの恵みを明らかに

しようとする取り組みを行っています。鈴鹿高専の中では、少し異色の研究のように思う方もいらっしゃるかもしれませんが、この取り組みには工学分野の知識が欠かせません。鈴鹿高専における取り組みとして、一つの可能性を示していけたらと思っています。

授業は『情報処理Ⅱ』や『卒業研究』などを担当しています。授業を通して電子情報工学分野の知識を身近に感じて、この分野の可能性を考えてもらえたらと思います。授業は当然、課題もあれば試験もあります。それを一つの目標として、さらに大きな目標に向かえるよう(うまくいかなかったときはその原因も考え)、頑張っていきたいと思います。



着任のご挨拶

教養教育科 助教
菊池 翔太

四月より、鈴鹿高専の教養教育科に着任となりました菊池翔太と申します。

本校では数学の科目(基礎数学・微分積分学・線形代数学など)の各授業を担当することになります。質問したいことなどありましたら、遠慮なく申し付けください。

私の専門は関数論、特に多変数複素解析学です。その中でも多重複素グリーン関数に関連する話題に興味を持っています。グリーン関数は数学・物理学だけでなく、工学においても重要視される対象です。それ故に本校において、グリーン関数が実際に応用されている様を見られるのではないかと胸を膨らませています。

まだまだ分からないことも多く、周りの皆様にご迷惑をおかけすることがあると思いますが、日々努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。



着任のご挨拶

教養教育科 助教
青柳 唯

4月1日より鈴鹿高専の教養教育科に着任いたしました青柳唯と申します。

本校では保健体育の授業を担当しています。私の専門は体育学、その中でもスポーツバイオメカニクスやコーチング学を研究しています。自分自身が陸上競技棒高跳の選手だった頃、競技力を向上させるために「できないことをできるようにすること」を考え続け、活動していました。

スポーツ以外でも通ずることですが、「できないことができるようになった」経験は、ある目標に向かって努力し、成し遂げる力を育みます。このような成功体験を学生の皆様にもお伝えできるようにこれまでの選手活動等の経験を生かして、少しでも早く保健体育の教員として本校に貢献していきたいと思っています。

また、三重県は初上陸ですので土地勘がないことや、業務についてもまだまだ分からないことが多く、皆様にはご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、一日でも早く馴染んでいけるように精進していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

2021年度 青峰同窓会 会計報告

摘 要		金額 (円)
収入の部	・2020年度からの繰越金	28,243,596
	・2021年度新入会員(2020年度 卒業生) 入会金・終身会費(191名)	2,101,000
	・預金利息	450
合 計		30,345,046

摘 要		金額 (円)
支出の部	・会報発行経費	1,014,747
	・事務費	0
	・先進的エンジニア育成基金寄付(2021年度分)	1,000,000
	支出小計	2,014,747
	・2022年度への繰越金	28,330,299
その他小計	28,330,299	
合 計		30,345,046

お知らせ

私は、鈴鹿高専4回生で工業化学科を昭和45年卒業し、昭和56年から令和元年まで、鈴鹿高専で、倫理社会、哲学、技術者倫理担当の教師を務めた奥貞二です。

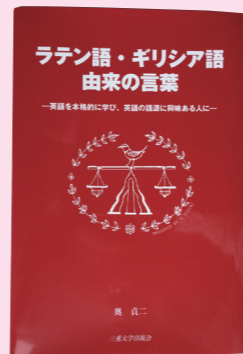
二つ皆さんにお知らせすることがあります。一つは、この青峰同窓会会報の編集係を、電子情報工学科板谷先生に代って担当することになりました。よろしくお祈りします。皆さんの方から、こんなことを載せてほしいというお知らせ、要望、希望があれば、どんどん取り上げて記事にしていきたいと考えています。

二つ目は、この度、三重大学出版会から「ラテン語ギリシア語由来の言葉」というタイトルの本を出しました。簡単に紹介します。

日本人にとって英語は、どこかあちら側の言葉で越えられない壁があるような気がありませんか。ところが、英語の語源を知れば、英語を母国語とする人と、その語源を知った言葉に対する距

離感が同じというか壁が無くなると思われま。そこで取り上げたのはこの本です。今や日本語は、カタカナ言葉で溢れています。古典語と呼ばれるラテン語やギリシア語についても例外ではありません。英語の6割程がラテン語、1割程がギリシア語由来と言われています。英語の語源を知れば、英語を母国語とする人と同じ距離でその言葉に接することが出来、新しい世界が開けること間違いありません。この本で扱うのはごく一部の言葉ですが、誰でもこれを契機にハッキリ語源へと目が向き、新しい接近、取り組みが約束されるのを確信します。

英語を本格的に学ぼうとする人、英語の語源に興味があるという人は是非手に取って読んでみて下さい。



鈴鹿高専青峰同窓会の皆様へ

鈴鹿高専は皆さんのUターンを支援しています

本校の卒業生は約1万人となり、全国の企業、団体等で活躍されています。しかしながら、様々な事情で三重県へのUターンを考えておられる方もあるのではと、推察いたします。

鈴鹿高専では、鈴鹿高専テクノプラザ(注1)を窓口として、卒業生のUターン支援を行っております。テクノプラザには、卒業生の堀部と元教員の桑原の2名のコーディネータが在籍し、皆さんのご相談に応じております。Uターンを考えておられる卒業生の皆さん、まずは、コーディネータに声をかけてください。

三重県では県外への人材流出が見受けられ、約161

社のテクノプラザ会員企業でも即戦力の技術者が不足しており、卒業生のUターンを切望しています。会員企業の多くはOB・OGが働く企業ですので、安心して仕事に取り組むと思います。

職業安定法に基づく実務は職業紹介専門企業が行います。コンサルティングを通じて、地域、職種はもちろん皆さんの技術経験、性格の理解から始め、不安なく転職頂けるサポートを準備しております。

会員企業には中京地区企業もありますし、シニア専門職を求めている企業もあります。まずはコーディネータにご確認ください。

両親の老後が心配だし、田畑の管理も...

都会の競争やストレスより、技術を生かした仕事。

〈テクノプラザホームページ〉

エントリー:登録

オンライン面接

面接のスキルアップ

企業や職種の分析

企業・職種の決定

企業面接

入社後のカウンセリング: 転職企業への定着支援

地元の転職専門サイトでの登録となります。地元企業に詳しい転職サイトが不安のない転職に寄り添います。

- 適職診断、自己理解
- 履歴書、自己PR書の書き方、添削指導
- 貴方に代わって条件交渉
- カウンセリングにより、その他の心配ごとにも対応します。

会員企業見学会の様子

人材企業の支援のもとで不安なく転職

鈴鹿高専テクノプラザ ホームページ <https://www.suzuka-ct.ac.jp/facilities/techno-plaza/>

注1: 産学官連携で ものづくり支援 ~鈴鹿高専テクノプラザ~

2013年(平成25年)に産学官の連携を構築し、製造業の課題に寄り添った教育・研究を振興し、地元企業の発展に寄与すべく「鈴鹿高専テクノプラザ」を設立し10年目を迎えています。現在は、企業会員161社、特別会員15団体、個人会員20名です。また、テクノプラザの活動を更に充実させるために、企業会員及び個人会員の増強を進めています。

卒業生の皆様には、関係企業の会員登録にご協力頂ければ、共同研究や人材の紹介を通じて共存共栄できるかと存じます。

お問合せ・お申込みは、下記連絡先までお気軽に!

鈴鹿工業高等専門学校 総務課(鈴鹿高専テクノプラザ事務局)
 TEL: 059-368-1717 E-mail: technoplaza@jim.suzuka-ct.ac.jp
 コーディネータ連絡先/堀部: stillwater248@yahoo.ne.jp 桑原: hiquwa@gmail.com